

平成 30 年 6 月 13 日
宇 城 市

防災拠点センター（仮称）建設の進捗状況

～来春を目途に松橋・豊野地区の建設に着手～

宇城市では「熊本地震からの復興に向けた取組」として、大雨・台風・地震等の自然災害が発生した場合に、地域住民が一定期間滞在するための新たな指定避難所として利用する「防災拠点センター（仮称）」の整備に向け、現在、実施設計の準備を進めています。

本センターには、避難室のほか、調理施設、シャワー、授乳室等を備え、全ての施設には、72時間対応の非常用電源設備の設置や衛生器具設備としてマンホールトイレなどを設置することとし、来春を目途に松橋地区（2箇所）、豊野地区（1箇所）の建設に着手する予定です。

なお、詳細については以下のとおりです。

1 防災拠点センター（仮称）の構造

地区	三角地区	松橋東地区	松橋西地区	小川地区	豊野地区
建築延床面積	998.20 m ²	1,986.04 m ²	1,441.66 m ²	1,499.22 m ²	970.79 m ²
構造形式	鉄骨造 1 階建	鉄骨造 2 階建	鉄骨造 2 階建	鉄骨造 1 階建	鉄骨造 2 階建
場所	旧三角中跡地	サン・アビリティーズ横	松橋公民館敷地内	旧小川支所跡地	豊野公民館敷地内
完成予定時期	平成 32 年 6 月頃	平成 32 年 2 月頃	平成 32 年 2 月頃	平成 32 年 6 月頃	平成 32 年 2 月頃

※各地区のイメージパースは別紙のとおりです。

2 非常用電源設備

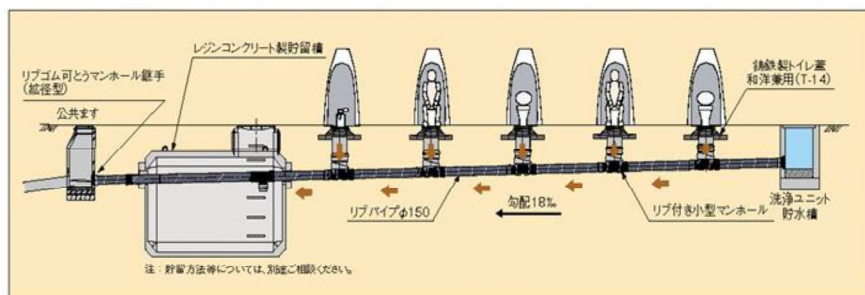
防災拠点センター（仮称）全ての施設に72時間対応の非常用電源設備を設置します。ただし、停電時に容量超過を招くことが予想されるため、「照明能力」「使用可能なコンセント数」「空調対応」など優先度の高いものを選別し、稼働します。

3 衛生器具設備

施設内のトイレについては、管の破断を防ぐ「耐震型高性能ポリエチレン管」を使用し、断水時でも対応が可能なフラッシュタンク方式の便器を採用します。

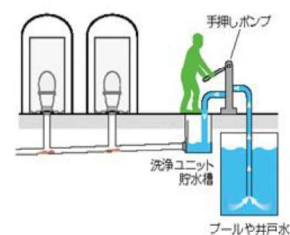
また、施設内のトイレが使用不可となる場合や車中泊の対応としてマンホールトイレを設置し、防災井戸による給水機能なども備えます。

1 システム構成



【モデル例】Ⅱ型貯留槽使用、トイレ5基、避難人口500人

・洗浄方法はP4に記載の【モデルケース 1,2】をご参照ください。



4 給水設備

給水設備は、発災後一定期間の水を確保するため、「貯水槽方式」を用いるのが一般的ですが、「防災井戸」による生活雑用水や防災備蓄倉庫建設による飲用水を確保することにより、経済設計でメンテナンスが不要な直結給水方式を採用いたします。

生活雑用水（トイレ等）を含む給水を全て貯水槽に頼ることになると、多くの水量を確保しなければならず、設備費や維持管理費が高額となります。本市では、防災井戸を市内7箇所に整備する予定であることから、炊事用・飲料として限定した場合は備蓄する水を有効活用することができます。

【問い合わせ先】

総務部公共施設マネジメント課
元田課長、西浦係長
〒869-0592 宇城市松橋町大野 85
TEL : 0964-32-1811 (直通)
FAX : 0964-32-0110

【別紙】イメージパース



三角地区



松橋東地区



松橋西地区



小川地区



豊野地区